

～仙台地域の元気な情報を掲載！～

瑞巖寺の杉並木と海岸林の再生を目指して！



松島町に在住する宮城中央森林組合の佐々木勝義さんは、本業の傍ら林業経営研究会やNPO団体の一員として様々な活動を行っています。とりわけ震災以降は、被災した国宝「瑞巖寺」の杉並木や仙台湾の海岸林の再生に奔走しています。

中でも、地元松島を象徴する瑞巖寺の杉並木は、津波による塩害でこれまで約110本が枯損し、今なお枯損が進行している状況にあります。寺から相談を受けた佐々木さんは、愛着のある郷土の杉

並木だけに「まずは枯損を食い止め、国宝瑞巖寺に相応しい新たな並木を再生したい」との強い意志を掲げながら再生に向けた構想を思案中です。

また、海岸林の再生を進める公益財団法人オイスカの活動への参画をきっかけに、同法人が開催した「海岸林再生シンポジウム」においてはパネラーを務めるなど、震災復興に向けた地域リーダーとしてめざましい活躍をされています。

そのほか、各市町村・団体等が主催する森林・林業体験学習や、老朽化した松島町の富山観音観音堂の修復などにも深く関わっています。「忙しい！！」を口にしながらも明るく語る佐々木さんの言葉からは、震災復興と地域活性化への熱き思いが伝わってきます。(写真：瑞巖寺杉並木で凧と構える佐々木さん)

閑上の水産加工業者 (有)マルタ水産が 「復興仮設店舗閑上さいかい市場」で営業を再開しています！

赤貝の塩漬けや小女子ちりめん等で有名な閑上の水産加工業者(有)マルタ水産は、1月7日から名取市美田園で仮設店舗をオープンし、2月4日からは「復興仮設店舗閑上さいかい市場」内の一店舗として営業しています。

同社は津波により、店舗と加工場を失い、また従業員1人が犠牲となりました。代表の相澤信幸さんは当時を「頭が真っ白だった」と振り返ります。しかし、避難所生活を送る中で、(株)海祥からシラス製品の先進地である静岡県での研修を勧められていたことを思い出し、「シラスは小女子と漁期が異なるため、シラス加工品を取り入れれば、仕事の幅が広がる。シラスの加工法を学ぼう」と考え、息子とともに、静岡市の(株)マルカイで社員として研修を受けることにしました。早朝から夜遅くまで働き、漁の仕方から魚の見極め方、加工法まで、あらゆる技術、知識を吸収しました。現在、店舗で販売されているシラスは静岡県で相澤さんたちが加工したものです。そのほかにカレイの一夜干しや赤貝の塩漬けなどを販売しています。





「復興仮設店舗閉上さいかい市場」は、名前の通り、震災後離れ離れになってしまった地元の人々を結びつける機能を果たしています。近隣の仮設住宅に住む閉上の人々をはじめ、市内外から多くの人々が訪れています。

相澤さんは、「ここを拠点に販売を行い、ダシ汁にこだわるなど、他の人ができないような工夫をしていきたい」と今後の目標を話してくれました。

【問】 閉上さいかい市場振興会(事務局 名取市商工会)
電話：022-382-3236

震災を乗り越えて、新たな地でいちごが栽培されています

山元町の岩佐隆彦さんは、地震に伴う津波により、いちごを栽培していたハウスが被災したため、栽培を継続することができなくなりました。しかし、何とか平成24年産いちごを生産したいという思いから、空いているハウスを探し、大和町にあったハウス5棟(約8a)を借り受け、生産再開に至りました。

いちご栽培開始に当たっては、ハウスのビニールの張り替え、高設ベンチの設置、用水の確保、いちご定植苗の確保など、かなりの準備が必要であり、家族や地元の友人の協力を得て作業を進めました。また、培地の土壌分析や用水の水質改善対策、病害防除等について、仙台農業改良普及センターの支援を受け、9月半ばには定植することができました。

大和町は山元町と比べて冬期の気温が低く、また、冬型の気圧配置が強まると西から雪雲が流れてきて、日射量を確保するのが難しくなります。しかし無事、12月半ばにはいちごが色づき始め、1月からは収穫、出荷が本格的になりました。

大和町でのいちご生産は次年度も続ける意向です。



「復旧」ととどまらない抜本的な「再構築」

～ 新たな時代の農業・農村モデルの構築を目指して ～



仙台管内の農地及び農業用施設は津波により甚大な被害を受けました。仙台管内では、関係機関の指導、協力のもと、5月から進めてきた災害復旧事業の申請(査定)は12月28日までにすべて終了しました。現在は災害復旧工事による1日も早い営農再開に向けて、農地復旧や除塩作業、排水機場等の農業用施設の復旧に努めています。

また、宮城県では、ほ場の大区画化等の事業を実施するために必要な東日本大震災復興交付金事業(農地整備事業)による調査計画費の交付を受けるため、関係市町と共同で事業計画を作成し、復興庁に申請を行いました。

今後も、甚大な被害を受けた地域では、県の復興計画に基づき、被災前の土地利用や営農方式の抜本的な見直しを進めるとともに、広域的で大規模な土地利用を検討するなど、新たな時代の農業・農村モデルの構築を目指していきます。

米粉菓子を大郷町の特産品に！ ～ Fluffy Heart ～



米粉菓子工房 Fluffy Heart の千葉智恵子さんは、平成21年10月から、大郷町の米や自家生産の野菜を使った焼き菓子の製造、販売を行っています。地産地消をモットーに、小麦粉を一切使わず、米粉のみで作るシフォンケーキはしっとりふわふわです。クッキーやマフィンなども販売しており、常連のお客様も増えました。

千葉さんは地震により住宅に大きな被害を受けたものの、幸いにも加工場に被害は無く、震災後、間もなく営業を再開することができました。

しかし、甚大な被害を受けた人々の深刻な状況を知ることにつれ「こんな時こそ被害が少なかった私達が頑張って、大郷町や宮城県を元気にしなければ」という思いが強くなりました。米粉菓子を大郷町の特産品としてこれまで以上にPRすることで町や県の力になれたらと考え、夏以降は大郷町への進出企業にも営業を開始しました。徐々に信頼を得ることができ、今では県外への贈答用として季節の節目毎に注文を受けています。

千葉さんは、「これからは、ハロウィンやクリスマス、バレンタインデー向け商品の他、季節毎の限定商品にも力を入れ、1年中米粉菓子を楽しんでもらえるようにしたい」と話してくれました。ぜひ、大郷町産の米粉や野菜のやさしい味を楽しんでみてください。Fluffy Heart の商品の一部は「道の駅おおさと」でも購入できます。（写真右：好評だった X'mas バージョンの3色シフォンケーキ）



【問】 Fluffy Heart 電話：022-359-4739

被災にめげず、4Hクラブ員集合！ ～ 亘理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会 実績発表会を開催 ～



平成24年1月26日に、亘理名取地区の4Hクラブ員が一堂に会し、日頃の活動成果を発表する「平成23年度亘理名取地区農村青少年クラブ連絡協議会実績発表会」が亘理農業改良普及センターで開催されました。クラブ員の殆どが東日本大震災により、自宅やほ場に被害を受けており、クラブの活動は非常に難しい状況でしたが、今年度唯一の地区連事業として行われたものです。同発表会には青年農業士、関係機関の職員など約30人が参加しました。

例年とは異なり、意見発表の部のみの開催となりましたが、5人のクラブ員が震災以降の体験や取り組みについて、それぞれの思いを語りました。自らのいちご生産再開への思いやいちご産地の将来ビジョンを力強く宣言した山元町の志子田勇司さんが最優秀賞に選ばれ、代表として県農村青年会議で発表することになりました。

参加者は仲間の意見発表を聞きながら、自ずと震災以降の生活を振り返っている様子でした。1人ひとりが復興に向けた新たな一歩を模索する良い機会となったことでしょう。

春を告げる！ ～ 亶理町のランンキュラス ～

J Aみやぎ亶理花卉部会(横山仁一会長)は、冬季の暖房経費が少ない低温性花きとして有望なランンキュラスの生産に平成22年から本格的に取り組んでいます。

平成22年作付け分は平成23年1月末から出荷が始まり、3月に出荷のピークを迎えましたが、東日本大震災により仙台市場が休場を余儀なくされたため、春彼岸向けの出荷ができませんでした。幸いなことにランンキュラスの生産施設は被災を免れたものの、一番の需要期に出荷できなかつたため、思い通りの収益は得られませんでした。

しかし、それでも十分に手応えを感じた生産者3名は、作期拡大を目指して、平成23年作付けでは球根冷蔵処理による促成栽培に取り組みました。その結果、昨年より2ヶ月出荷が早まり12月初めからの出荷が実現しました。冬期は寒さにより他の花き類の出荷数量が停滞する一方で、ランンキュラスの出荷は順調に続き、売り上げを伸ばしています。春を感じさせる華やかな色合いが目を楽しませてくれることでしょう。



いちごの高設栽培システム研修会開催

～ いちご団地の営農予定者が熱心に参加 ～



亶理町と山元町では、平成24年度以降に両町合わせて施設面積約80haのいちご団地の整備を計画しています。この計画に係る意向調査をいちごの生産者を対象に実施したところ、新たに養液栽培に取り組みたいという希望が多く寄せられました。そのため、平成24年2月4日に、「いちごの高設栽培システム研修会」が開催され、約160人の生産者が参加しました。

研修会では、(独)農研機構野菜茶業研究所の主任研究員である岩崎泰永さん、静岡市のいちご生産者である三倉直己さんから養液栽培に関する基礎的な講演がありました。

質疑応答では、「養液栽培に向く培地の種類とその理由を教えて欲しい」、「高設栽培の場合に培地加温は必要かどうか教えて欲しい」等、活発に質問が出されました。研修会場には各資材メーカーによる養液栽培システムの展示ブースもあり、生産者は各メーカーの担当者と熱心に情報交換を行っていました。

被災したいちご生産者の復興にかける熱い思いが伝わってくる研修会でした。

読者の皆さまからのたくさんの明るい情報をお待ちしております！

お問い合わせ先)宮城県仙台地方振興事務所
地方振興部(担当:鈴木,高橋)
(HP) <http://www.pref.miyagi.jp/sdsgsin/>
(E-Mail) sdsinbk2@pref.miyagi.jp
(TEL) 022-275-9140

TOPICS □■ 今年ついにツイッターを始めた「むすび丸」！一日分のツイートがブログで読めるので、アクセスしてみてください。

(URL: <http://blog.goo.ne.jp/musubimaru/>)

4月には「仙台・宮城【伊達な旅】春キャンペーン」がスタートします。H25DCに向け、盛り上げていきましょう☆

